

**第11回 理研バイオリソースセンター リソース検討委員会 諮問事項について  
実験動物開発室**

日 時 平成24年2月10日（金）14：00～16：20

場 所 富国生命ビル 23階 理化学研究所 東京事務所 大会議室

出席者

（委員等）米川博通 委員長、伊藤豊志雄、木南 凌、城石 俊彦、山村 研一、  
横山 峯介、各委員

（NBRP）佐藤事務局長

（理研側）小幡センター長、阿部副センター長、吉木 実験動物開発室長、今泉研究  
推進部長、村上課長、

1. 実績について

評価コメント

【全般】

- ・システムが充実しており今後もさらなる実績が期待できる。
- ・震災の被害を最小限に抑えたこと及びリソースの損失がなかったことは高く評価できる。

【収集・提供・品質管理】

- ・収集および提供については、高い数値目標を達成している。
- ・Cryoport/Fedex による海外輸送はユーザー負担を軽減できる良い方法である。

【保存技術開発・バックアップ】

- ・バックアップ体制が確立されつつあり評価できる。

【前回委員会に対する対応】

- ・諮問事項に対しては良く対応しており評価できる。

提言・助言

【収集・提供・品質管理】

- ・ENU マウスの提供が少ない原因について特性情報の不足によるのか調査が必要である。
- ・提供数に加えて、提供数/維持飼育数もあった方が評価しやすい。
- ・囲マウスを用いた微生物モニタリングについては、判定基準や標準化が出来ているのかどうかを示す必要がある。囲マウス系統の感染感受性、急性感染と慢性感染の場合がある点も考慮されているかどうか。

【広報活動】

- ・成果論文の収集については依然として効率が悪く、他のバイオリソースセンターと共同で国際誌へ働きかけ、材料の由来の明記を徹底する等のさらなる工夫が必要である。
- ・階層の異なる利用者ごとに HP の内容を充実させる必要がある。
- ・活動の中で得られた有益な情報を速やかにユーザーに公開して欲しい。

【開発事業】

- ・インヒビン抗体の使用による野生マウスの凍結保存での進展をしっかりと方法として確立して頂きたい。

【バックアップ】

- ・バックアップ体制が確立されつつあるがさらなる加速を求める。

2. 次期中期計画及びNBRP 計画に関する助言と提言

**【運営方針・戦略・人事・資金】**

- 収集・提供業務を行いつつも、BRC 独自の技術開発にも意欲的に取り組んで進展させて頂きたい。
- 遺伝背景の変更や Tg/KO を組み合わせて交配する等により良いモデルマウスができる可能性がある。作製すべきモデルについて具体的に議論する機会を別途設けると良い。
- 疾患モデルの開発についてはフォーカスを絞り、感染症のモデルや ES, iPS 細胞を用いたヒト型臓器をもったモデルマウス作製など BRC 内の連携を活かした開発を検討して頂きたい。
- 貸しラボを設置し、不定期的な研修生ならびに外部研究者を受入れ、世界に伍したリソースの活用により国内の実験動物・動物実験のボトムアップに取り組むことを希望する。

**【リソース整備戦略】**

- マウス系統の派生物の取扱いについて対応準備をした方がよい。

**【国際関係】**

- NBRP の中核機関が海外と連携していることは大切であり、IMPC への参画は国際貢献としても重要である。

以上